

# 『高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化』

第4次山形県総合発展計画の実現に向けて取り組む5つの政策の柱について、  
主要な取り組みを紹介するシリーズの第3回目です。

## 特集 デザインが生み出す新たなものづくりのカタチ ～高付加価値なものづくりの実現～



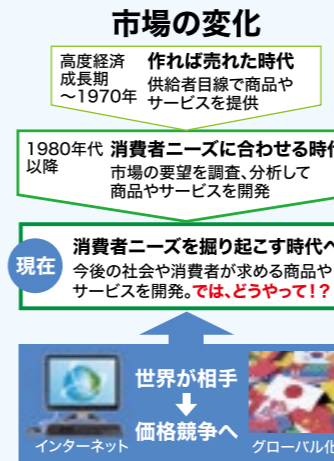
©山形エクセレントデザイン展 2020（令和2年9月、遊学館）

### 県内企業を取り巻く環境

消費者ニーズの多様化、国際化やインターネットの普及で、県内企業を取り巻く環境は激変しています。市場では、製品の均一化による価格競争が進み、本県の多数を占める中小企業は苦戦を強いられています。

### これからのものづくりの鍵は？

今後県内企業が持続的に、発展していくためには、価格以外の要素で勝負しなければなりません。そこで必要とされるのが、「独自の価値」を持つ「高付加価値なものづくり」です。「独自の価値」は、消費者の潜在的なニーズを掘り起こし、これを満たす製品を開発すること等で得られます。この潜在的なニーズの発見に役立つのが、デザイナーが行う思考過程です。

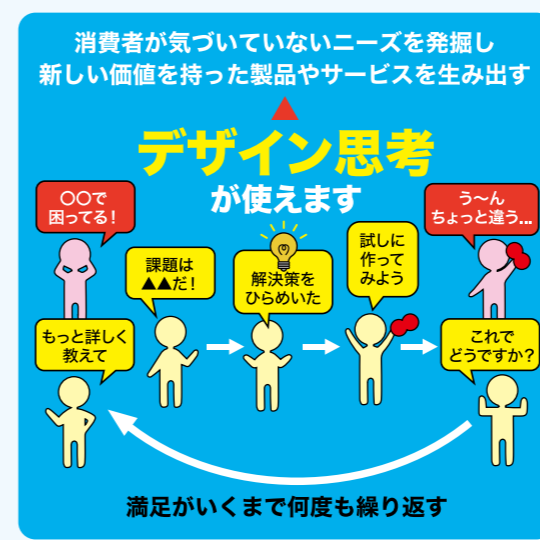


### デザインは見た目だけじゃない！

意匠や外形というイメージが強い「デザイン」という言葉。実は、海外では「設計」に近い意味で使われています。デザイナーは、依頼者の希望を満たすアイデアを創出するために、聞き取り、計画、試作を繰り返します。

近年、この思考過程（デザイン思考）が、消費者の潜在的なニーズを見つけ解決する有効な方法として注目され、様々な場面で活用されるようになってきました。

県では、デザインを「問題解決のために計画を立て、創意工夫する行為」と定義し、これを利用して県内企業の「高付加価値なものづくり」を実現する取り組みを行っています。



### ② 地域のお悩みもデザインで解決！

県では昨年度から、東北芸術工科大学と連携し、デザイン思考による地域課題の解決に取り組んでいます。

### ① 伝統的工芸品をより魅力的に

高い品質を誇りながらも、生活様式の変化などで需要低下が問題となっている伝統的工芸品<sup>※</sup>。その販路拡大のために開発したのが「なるこま」です。誰でも楽しめる66将棋の駒を和柄で表現し、使わない時には飾れる仕様にしたことで、初心者や、インバウンドを含む観光客など、新たな顧客層の開拓が期待されています。



※山形県産物 置賜産 山形仏壇 天童将棋駒 羽越しな布の5品目

### ② ITで「雪」を克服

「山形県民の冬の悩み『雪』を克服し、暮らしを便利にする」という課題には、積雪時に道路表示を路面に映す仕組み、雪を払う手間が省ける防寒具など個性的なアイデアが数多く提案されました。その中で、IT技術により降雪量を簡単に検知する仕組みに、県内のものづくり企業が着目。現在、試作品の開発に取り組んでいます。

### ③ ものづくり企業を応援！

今春、県工業技術センターにデザイン科を新設し、デザイン思考を活用したものづくりの支援を始めました。各工程で生じる課題について、企業と共に考えながら、製品開発が進むように後押しをしています。

ものづくりでお悩みの皆さん  
私たちに相談ください！

県工業技術センターデザイン科  
023-644-3222  
yxdesign@yrit.pref.yamagata.jp  
HP: やまがたのデザイン

### 合言葉は「&D」

デザインの活用は、製品価値を高める有効な手段です。県では、今後も「&D」（デザインと共に）を合言葉に、県内企業のものづくりを支援していきます。

### 高付加価値な製品作りに成功

河北町のスリッパメーカー阿部産業株式会社は、山形エクセレントデザイン事業に参加し、デザインによるものづくりを学びました。一般的なスリッパとの差別化を図り、自社製品のブランド化に成功しています。

阿部弘俊社長

エクセレントデザインを通じて、製品の「価値の伝え方」を考えなければならぬことを学びました。これからのものづくりは、デザインの力を使って商品をより良くしていくことが、不可欠だと思います。

